

# いたいのいたいの 飛んでけ通信

遊びのボランティア ガラガラドン  
 Since 1991・国立国際医療研究センターで  
 活動 原則毎週土曜日 13:30~16:30  
 平日は長期入院児に個室を訪問(在宅訪問も)

## スキルボランティア紹介



ペーパー  
山ク  
田ラ  
さフ  
ント



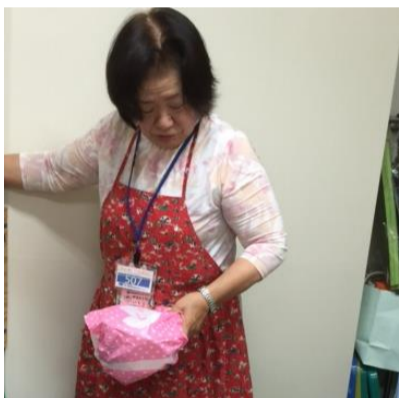
…事務局便り… — 病気の子どもの子育て応援—  
 ガラガラドン事務局 坂上和子(保育士・社会福祉士)  
 認定NPO法人病気の子ども支援ネット遊びのボランティア

通信62号裏面は、「全国の仲間とつながろう」を合言葉に各地のこども病院視察交流の様子をお伝えしています。前号の沖縄に続き、宮城、神奈川にもまいりました。院内を周り、ボランティアの現場を見聞きし、意見交換をしました。これまでボランティア間の交流が一度もなかったとかで、自分たちの活動を外から評価してもらいよい機会になったとの声が多かったです。「病院の運営はボランティアの存在があって質が高まっていると感じているところです」と神奈川の院長先生のご発言に、ボランティアたちの意欲がますます向上していったように思います。

個人では難しい訪問もネットワークにしたおかげで病院のトップの方々からも歓迎され、大きな成果がありました。しかしこれは継続が難しい。一番はお金がかかるということ。飛行機や新幹線でみえる方もいらっしゃいました。ネットワークを支えて下さったのは企業です。立上げ当時は武田薬品のタケダ・ウェルビーイング・プログラムが応援してくださり、現在はキリン福祉財団に引き継がれています。助成金だけに頼らない方法も考えていかねばと思っています。そして来年はいよいよカナダのトロントこども病院へ。“遊びのボランティア、世界に飛ぶ”報告もご期待下さい。

さて、ガラガラドンは“スキルボランティア”といって特技をもつボランティアが活躍しています。アクセサリーや刺繍などは高校生に人気があり、子どもの発達や興味にあわせたスキルをもつボランティアがこどもたちを楽しませてくれています。多様性に富んだボランティアがガラガラドンの宝です。事務局としては、交通費や材料費を含む謝礼をお支払いして、ご負担の軽減をはかっています。皆さまのご寄付はどのように使われていますこと、ご報告いたします。

今年25周年の節目の年で、無事迎えられましたことに感謝しつつ、来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



### アート造形

#### いっこさん

いっこさんの活動歴は10年になり、毎年クリスマスの頃はプレイルームや個室でクリスマスツリーのステンシルが喜ばれています。作り方は透明アクリル板にモミの木のステンシルを塗って、綿棒などで雪や飾りをつけ、仕上げにお気に入りシールを貼ります。ブルーのツリーなんてすてき！こどもたちの発想はいつもミステリー

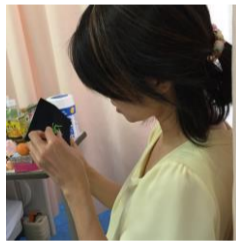
### アクセサリー 宮田さん



これひとつ作るのに3回訪問し、5時間かかっています！細かいの



### 刺繍 華子さん



私たちの活動を応援してください！

事務局 病気の子ども支援ネット 遊びのボランティア  
 162-0056 新宿区若松町10-1 YSビル302  
 Tel & fax 03-6380-3115  
 e-mail [a.so.vo@y3.dion.ne.jp](mailto:a.so.vo@y3.dion.ne.jp)  
 ホームページ: <http://www.hospitalasobivol.jp>

銀行口座: 三井住友銀行深川支店 普通3790894  
 郵便貯金口座: 記号10040 番号97720491  
 口座名: 病気の子ども支援ネット 遊びのボランティア

## 日本女子大学家政学部長賞を受賞しました

2016年10月27日



写真右 日本女子大学家政学部児童学科の安藤朗子先生のゼミ生を囲んで  
 写真左 同大学の住沢博紀家政学部長より賞状の授与

受賞理由「入院児のための遊びのボランティア25年間の活動に對して」。

学生力は偉大なり。  
 ガラガラドンの活動は登録50人の約4割ちかくが学生で、その8割は日本女子大学家政学部児童学科の学生です。

これは1995年に出版された「病院で子どもが輝いた日(あけび書房)が結んでくれました。この本をたまたま家政学部児童学科の川上清子教授(当時)が読んでくださったことで、以来毎年、ゲストスピーカーとして授業やゼミに招かれ、学生さんたちとガラガラドンが繋がりました。20年もずっと同じ学科から学生が来ていて、ちょっとすごいでしょう。それと川上先生がこの春ご退職された後、今年から後任の安藤朗子先生に引き継がれました。理解ある先生がいなくなったら終わりではないってこともすごくない？

住沢博紀家政学部長から「学生たちが病気のことと家族の理解を学ぶ貴重な経験を得ている」とのお言葉をいただきました。小児の緩和ケアのステージにおいても学生さんが力を発揮したことは「病気になってほしい遊びたい」に書いたことです。ところが、多くの病院では「学生は当てにならない、すぐ休む、辞める、だから採用しない」という評価が低いのも現実で、「いえない、大学の先生と力を合わせると学生は社会を変える力になるほど大きな成果をあげていますよ！」と、この賞をいただいたて改めて思ったことでした。

## 全国の仲間とつながろう！宮城こども病院訪問

2016年9月5日（月） - 46人が集まってボランティア交流をしました -  
 “全国小児病棟遊びのボランティアネットワーク主催”



開院 2003年  
 病床 241床  
 ボラ数 248人  
 Co専任常勤1人

開院と同時に150人のボランティアでスタート。同時に専任で常勤のボランティアコーディネーターがいらっしゃるって素晴らしい！病床数以上のボランティアが！

**プログラム**  
 ・挨拶 副院長 今泉益栄  
 ・病院概要 成育支援局次長 星芳夫  
 ・ボランティア活動について コーディネーター 太田久子  
 ・マクドナルド・ハウスとこども病院見学および交流会  
 理事長・院長 林 富

**交流会で意見交換**  
 ★「大阪から4時半起きて参りました」  
 ★沖繩から来ました。  
 ★NPOを立ち上げたのは10年前に子どもを亡くしたことがきっかけでした。当時お世話になった医師らと立ち上げました。  
 ★7年前に3才だった孫がここでお世話になりました。下もまだ小さく、私も付き添ってこの病院のすばらしさを知って、私にもできることはないかと思いつき5年前からボランティアを始めました。  
 ★10年くらいボランティアをしています。自分のリハビリになっっています。  
 ★仕事を66で退職したあと、これで人生を終わるのかと思ったとき、募集をみました。話をきいて出来るかなと思いついて、今は生き甲斐になっっています。  
 ★今日も総合受付でボランティアさんにやさしく声をかけてもらいました。まるで、どなたかのおうちにきたみたいなきもちになりました。  
 ★ハードはしっかりしている病院はありますが、ここはハードもソフトもどちらも素晴らしい。ここなら病気が治っちゃう。  
 ★ここが当たり前と思っっていました。ところが素晴らしいと初めて聞いてとっっても嬉しいですね。  
 ★小児医療施設を対象にした全国調査をみますと、専任で置いているのは3割、そもそもボランティアをいれている病院は6割程度。4割の病院はボランティアはいらない、予算がない、安全面を入れたくないなどいっつてます。ではなぜ、ここがこんなに活発なんだろう？  
 ★ボランティアって世の中の仕組みを変えられるほど大きなものなんだなって最近思うようになりました。  
 ★この病院にきたとき、息子が小さい時こういう病院があったらなあ、自分は苦労した経験があるので、ここでこれからもボランティアを続けたいです。  
 ★沖繩のこども病院も33年かかっておかしなことが運動をしたと聞きました。そのお母さんたちから「宮城のお母さんたちからパワーをもらって励まされた」と聞きました。え、沖繩が宮城から？と思っただけですが、宮城もこども病院をつくるにあたって、お母さんたちの力がすごかったんですね。  
 ★退院されても不安を抱えながらいらっしやる方へのご支援、有難うございます。  
 ★今39になる娘が7歳のとき、子ども病院に入院したんです。病院には飾りもない、白いベッドに白い壁。子どもが置かれてる環境に理不尽さを感じました。それで退職したら病院の子どもの力になりたいと思っ、ボランティアしたいといくつかの病院に電話したら、いらりませんと断られることが何度かあつて、ガラガラドーンに救われました。  
 ★ボランティア活動ってここだけがいいって言うのではなく小児医療全体の底あげをしていく必要があると思うんですね。ボランティアの関心が低い病院、まだまだあります。  
 ★お一人、お一人、お話ししたいので、お褒めの言葉をいただきまして、当院、そんなにすごかったのかって一瞬誤解をしまっただけでして（笑）自信をもちました。

ボランティア活動が活発なこども病院を訪問しています。どんなボランティアがいて、どんなシステムになっているのか情報交換をしました。これまで横のつながりがなかったので、こうした交流はととても勉強になっています。院長先生自らお出ましの歓迎を受けました！



**神奈川こども医療センター**  
 2016年 10月5日（水）  
 57人で情報交換

**プログラム**  
 ・挨拶 神奈川県立こども医療センターの概要 総長 山下純正  
 ・ボランティアの歴史 前ボランティアコーディネーター 梶山祥子  
 ・病院とボランティア ボランティアコーディネーター 加藤 悦典  
 ・ボランティア活動の実際 オレンジクラブ代表 三木 美雪  
 ・センター見学（3班に分けて行動）  
 ・次交流会（見学者・病院職員・オレンジクラブ 合計57人）  
 ・滞在施設リラの家見学  
 ・次交流会 6時終了

**交流会で意見交換**  
 ★今日、皆さんのお話しを伺って、ボランティアが病院で重要な働きをしていることを確認しました。  
 ★病院の運営はボランティアの存在があつて質が高まっっていると感じているところです。  
 ★うちは年に4、5回研修をやっていてボランティアを増やしたいと思っ、県の便り、タウン情報誌にもボランティア募集について広報していますが、なかなか集まらなくて、よそがどうしているか聞きたい。  
 ★仙台に続き、こちらをみてどちらともとても温かい、笑顔に感動しています。坂上さんに、みんなこういう病院なんですか？と聞いたらとんでもないということでした（笑）みんながこういう病院になったら良いと思っっています。  
 ★病院によっていろいろ違うことが分かりました。  
 ★3病院を視察しました。いずれの病院もボランティアは、病院の力、宝、医療と福祉の統合をめざしていると聞いてボランティアの力、威力を周辺の関係者が理解していること嬉しく思います。  
 ★転院することになった時、子どもが行きたくない。なぜなら、あつちの病院にはボランティアさんがいないからとその子が言っただけです。こういうことをもつと多くの人に分かっただけです。  
 ★神奈川は70年代という早くから子どもを大事にする病院を作っってきたんですね。  
 ★今日は工夫のきっかけを学んだので自分たちの範囲でやれることをしたいと思っっています。  
 ★〇〇から来ました。私は週2回の非常勤コーディネーターなので、電話連絡だけで終わっつてしまっています。  
 ★うちのNPOは病院との関係はもぐりです。  
 ★〇〇県のこども病院から来ました。病院が新しくなつてそこでボランティアコーディネーターをしてと言われ、1年半になります。コーディネーターといっっても他にも仕事もあつて片手間で調整がうまくいかないことや、私もボランティアをしたことがなくて、ボランティアの気持ちがあつたことあり、こうして会って意見交換をしたと思っ、飛行機で飛んできました。（拍手）  
 ★私はここで活動して25年になります。  
 ★ボランティアの皆さん350人、いろんな活動をされていて、医療者としては助かっています。医療者は医療者の視点、偏っています。違う人の視点が必要と思っ、それがつりあうことが大切ではないかと思っしています。  
 ★オレンジクラブでは、対等な関係を大事にしています。お互いに上下はない。長い歴史の中で積み上げてきたものです。  
 ★大阪の場合、ボランティアの抗体検査、当初は自費で受けてもらったのですが、病院と交渉して、今はボランティアの提出書類は全て無料で無料になっています。

開院 1,970年  
 病床 419床  
 ボラ数 321人  
 Co専任非常勤1

活動歴41年、すごいですね！  
 開院5年後に75人のボランティアでスタート。ボランティアは全てグループ制。27グループがあり、自分たちで助成金を申請したり、自立した活動を展開しています。